

北九州市立図書館協議会会長 様

北九州市立中央図書館

館長 柴田 憲志

これからの図書館のあり方について（諮問）

北九州市立図書館は、昭和38年2月、旧5市の合併による北九州市の発足に伴い旧市立図書館が北九州市立図書館として新たな一歩を踏み出したことに始まり、本年度60周年を迎えました。

これまで本市図書館は、図書館に対する市民のニーズや図書館を取り巻く社会情勢の変化等に応じた適切な図書館サービスの提供に努めてまいりました。平成14年以降は、7年ごとに貴図書館協議会から図書館サービスのあり方について答申を受け、それを基本的な指針として図書館サービスの充実を図ってきています。前回の答申を受けた平成28年以降では、答申に基づく子ども図書館の開館や図書館外での図書返却体制の整備に加え、子ども電子図書館の整備、小倉南図書館の開館及び4分館の廃館・1分館の移転等を行いました。

そのような中、本市図書館は、読書バリアフリー対応、加速する少子高齢化、コロナ禍を契機として急速に進展したデジタル化、さらに施設の老朽化や厳しい財政事情など様々な課題に直面しています。今後、このような課題に対応しながら持続可能な図書館サービスを提供していくことが求められており、本市図書館のあり方は再度見直しの時期に来ていると判断するに至りました。

つきましては、今後の北九州市立図書館のあり方について、貴協議会に諮問いたします。